

春爛漫

旬の五島を訪ねて

島の新たな活力と魅力にふれる旅



もてなしの心で癒しの旅を提供する 五島市ふるさとガイドの会

現在、五島市では、住民が主体となつて観光を中心とした地域づくりに取り組んでいる。五島の玄関口、福江港に着くと「五島市ふるさとガイドの会」の会長片山圭弘さんに迎えていただいた。平成十七年三月に発足したこの会は、五島市観光協会主催の「しま自慢人材養成講座」の講師と受講生二十四人で構成されている。

「私たちは、五島を訪れた観光客の方々に方言を交えながら、もてなしの心で案内することを心がけています。『また五島を訪れてみたい。』あのガイドさんにまた会いたい。』観光客の皆さんにそう思っていただけといううれしいですね。」会では、ガイド実務のしおりやアンケート用紙を手づくりで作成するなど、

五島の旅をより満喫してもらうための活動を展開。マニュアルどおりではない心温まるガイドぶりが好評を得ている。

お願いして久賀島にある国指定重要文化財の旧五輪教会堂を案内してもらった。ガイドをしてくださったのは泉松市さん。会の中でも、特に教会の歴史に精通している方である。

福江港から海上タクシーで約三十分。久賀島五輪地区の入り江に入ると、そこだけ時間が止まったようにひっそりと佇む古い教会が見えてきた。この旧五輪教会堂は、明治十四年（一八八一年）、島の西南に位置する浜脇に建てられた教会を昭和六年（一九三一年）に移築した瓦葺き屋根の木造建築。外観は和風、内部

はゴシック様式という、明治初期の教会堂建築の特徴を今に伝える貴重な文化財である。今年六月にユネスコの世界遺産暫定一覧表への登録が予定されている「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」。旧五輪教会堂はその構成資産の一つに挙げられている。

「この教会が世界遺産に登録されることは、厳しい迫害の中で信仰を守り続けた信者の皆さんの暮らしを知っていたくためにも、とても意義のあることだと思います。」と語る泉さん。窓の外に広がるのは穏やかな春の海。海岸に打ち寄せる波の音が、変わることもない信仰を讃えるように静かに鳴り響いていた。



外観は和風だが、内部はゴシック様式



「五島市ふるさとガイドの会」片山圭弘会長(左)と、旧五輪教会堂を案内していただいた泉松市さん。(右)

※1 しま自慢人材養成講座
自分たちが住んでいる島のすばらしさを改めて実感し、子どもたちや観光客にそのすばらしさを伝える人を養成する講座。内容は、五島の歴史や自然、キリシタン文化、食文化、民話や方言など多岐にわたる。

【五島市ふるさとガイドの会】
五島市福江港ターミナルビル内 五島市観光協会 TEL.0959-72-2963

県内で唯一、富江町で進む 中玉トマト「五島ルビー」の産地づくり

福江港に戻り南西に車を走らせると、約三十分ほどで富江町に入る。富江町は明治から大正にかけてサンゴ漁で栄えた町。今も当時をしのばせる古い町並みが広がっている。

同町でトマト栽培に取り組んでいる「五島ルビー研究会」の中村隆一さんのハウスに行くと、真っ赤に色づいたトマトが陽光を浴びて、まさに宝石のルビーを思わせるようにキラキラと輝いていた。この地で本格的にトマトの栽培が始まったのは平成十五年。ごとう農業協同組合による試験栽培の結果が良好だったことを受け、中村さんを含む四戸の農家が新しい品種を導入したのがきっかけだった。



真っ赤に色づいた「五島ルビー」



「五島ルビーは甘くておいしいですよ」と語る中村隆一さん、喜美代さん夫妻。



※2中玉トマト
トマトは果実の大きさに
大玉トマト(200g以上)、
中玉トマト(30g以上～200g未満)、
ミニトマト(30g未満)に分類される。

【ごとう農業協同組合】
4 五島市籠淵町2450-1 TEL.0959-72-6211



静かな入江にひっそりと佇む旧五輪教会堂(写真中央の2本の桜の木がある建物)